

# 令和7年度 病虫害防除技術情報 第8号

令和7年10月27日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

## イチゴにおけるハダニ類の防除について

令和7年10月中旬に実施した巡回調査では、イチゴにおけるハダニ類の発生が確認されました（図1）。

九州北部地方の1ヶ月予報（10月23日福岡管区気象台発表）では、平均気温は平年並30%、高い確率60%、降水量は少ない確率が30%、平年並40%と予想されています。

今後、ハダニ類が発生しやすい高温乾燥条件が続くと考えられるため、発生状況に注意し、早期発見に努めて速やかに防除を実施してください。

### 1. 発生状況

10月中旬に実施した巡回調査結果

発生圃場率：50.0%（平年：39.4%、前年20.0%）

平均寄生株率：29.6%（平年：11.4%、前年6.0%）

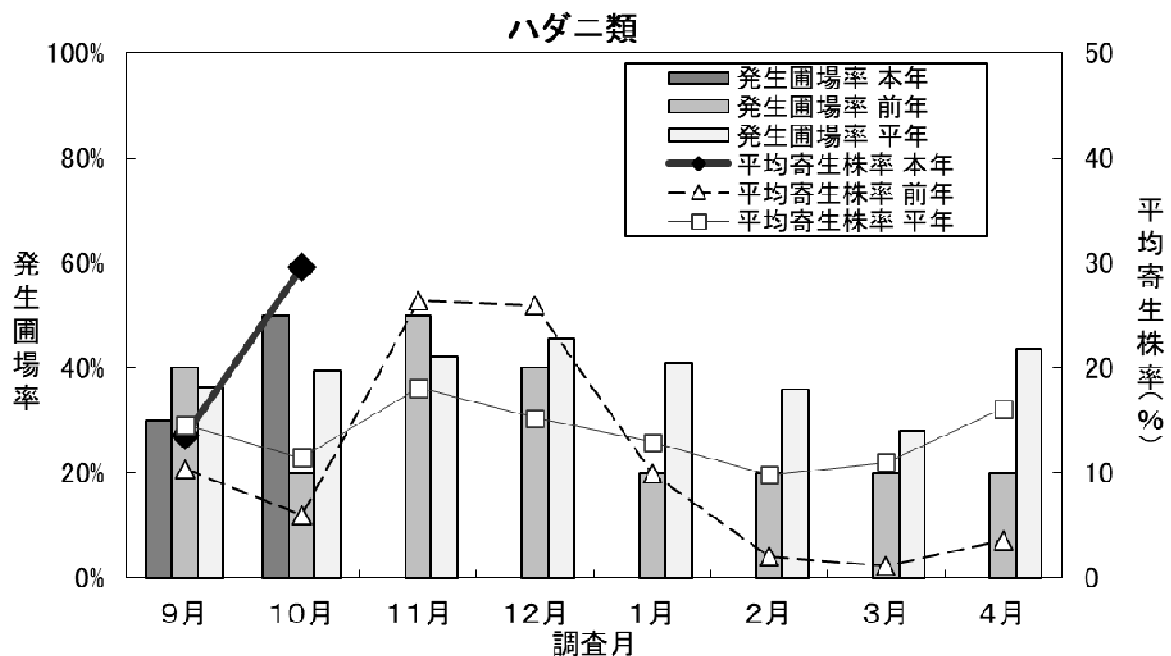


図1 発生予察巡回調査（イチゴ）におけるハダニ類の発生状況

## 2. 防除上の注意事項

- (1) 本虫は高温乾燥条件で多発しやすく、本圃では10月のビニール被覆後から増加しやすくなる。寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、ルーペ等を用いてよく観察し、早期発見に努めて速やかに防除を実施する。
- (2) 本虫は紫外線を嫌って下葉の裏に多く生息するので、薬液が葉裏にかかるように丁寧に散布する。また、短期間に複数回散布すると効果が高まる。散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行い、薬害に注意する。
- (3) すでに多発生が認められている圃場では、気門封鎖剤を中心に複数回防除を行ってハダニ類の密度を下げた後から天敵（カブリダニ類）を導入する。
- (4) 乾燥条件下になると天敵（カブリダニ類）の活動は抑制され、ハダニ類の活動は活発になるため乾燥条件にならないよう注意する。
- (5) 天敵に長期間悪影響を及ぼす薬剤があるため、天敵の導入にあたっては薬剤の選定に十分注意する。
- (6) 殺菌剤であっても天敵導入直後に薬剤散布すると影響が懸念されるため、期間を空けて散布を行う。また、防除薬剤には展着剤も含めて天敵への影響が少ないものを選択する。
- (7) 天敵に対する薬剤の影響は、日本生物防除協議会ホームページ内にある「天敵等に対する農薬の影響目安」を参照する。

ホームページアドレス

<https://biocontrol.jp/tenteki/>



- (8) 受粉用ミツバチ（マルハナバチ等）に影響を及ぼす薬剤があるため、薬剤の選定には注意する。
- (9) ハダニ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避ける。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「いちご」「野菜類」の項目を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

